平成12年度第1回OR企業フォーラム報告

●テーマ：「需要創出の経営」

講師　株式会社NTTドコモ　代表取締役　会長　**大星 公二氏**

10月19日(木)学士会館　会議室

さる10月19日(木)に，学士会館（神田）において平成12年度第1回OR企業フォーラムが開催された．参加者は大学・企業合わせて約50名に上り，ゲストスピーカーとしてお迎えした㈱NTTドコモの大星会長の「需要創出の経営」と題した講演の後，活発な質疑応答が展開された．

午後6時過ぎに，司会の副会長・東京ガス前田取締役エネルギー企画部長から，大星会長の略歴等のご紹介の後，いよいよ大星会長の講演が始まった．

講演は，まず大星会長がドコモに移られる前のトピックスから始まり，「営業でも細かな数字を扱うOR的な発想が必要だ」と痛感したといったお話などが語られた．やがて，ドコモに移られた後の話に移り，「最近，周囲の人たちから，黙っていても売れる携帯電話の会社に移って幸運だった，と言われるが，とんでもない．携帯電話は13年間も売れなかった」というお話と共に，ご自身でその問題点を一つずつ潰していかれたといった苦労話，そして，爆発的に売れ始めたときに，周りが浮かれる中で，会長が逆に危機感を持たれたことへと話題が移っていった．

この，売れ始めたときに大星会長が持たれた危機感は「今までの成長率ならば，今後15年程度の安定した成長が期待できるが，この爆発的な成長では数年でピークアウトしてしまい，ピークアウトした事業は必ず衰退してしまう．」といったもので「したがって，この事業がピークアウトする前に，需要に再点火させるような方策を練る必要がある」と考えられ，この様な危機感から，次の成長の芽である「iモード」が開発されたといったお話が印象的であった．

また，この「iモード」開発の過程でも，会長ご自身が持たれている危機感をドコモ社内の技術陣にも植え付けるために，まだ技術的に目処が立っていないうちに社外発表してしまったことや，開発が終了した段階で，この技術を社会に広め，よりよいものにしていくために，LINUXの例に倣い，その技術を全て公表したこと，そして現在はこの技術をデファクトスタンダードとするために世界中を飛び回っていることなど，いろいろと興味深いお話が伺えた．

講演は1時間半ほどで終了し，その後参加者から「世の中ではITによる景気回復などといわれているが，実はIT化とは中抜きになってしまうのでデフレ要因となるのではないか」といった質問もあり，大星会長は「確かにITのみで景気が回復するとはおもえない．今の消費者は本当にほしいものがそれほどあるわけではないので，各企業自ら新しい需要を作っていく必要がある．」などと答えられた．質疑応答は20分程度で終了し，その後ビール・軽食を伴った懇談会へ移ったが，残念ながら大星会長は次のご予定があるとのことで，参加者のみの懇談会となった．

最後になったが，全く新しい事業を一から築いていかれた企業経営者の生の体験談を伺えて，非常に有意義なフォーラムであった．

（文責・研究普及委員　システムプラザ㈱　石村　猛）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．